

科目ナンバリング		U-LAS04 10003 LJ47							
授業科目名 <英訳>	教育学II Pedagogy II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 倉石 一郎				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	木3/金3		配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、広義の教育者・教師の存在を《媒介者》という概念でとらえ、教育社会史的アプローチから教師・教職のあり方を考えることを目的としている。媒介者とは、教育の完全化、ないし「完全教育」をはかろうとする意志とともに歴史上のステージにその姿をあらわし、活動を開始する存在である。ここで言う完全教育への意志とは、ある国家や社会においてノーマルとされる就学形態や学習形態を、一定の国・社会領域内のすべての子どもたちにあまねく行き渡らせようとする意志のことである。

義務制、無償制などを最大公約数とする公教育の普及ペースは、国や地域によってまちまちであるが、その普及過程の終盤で大きな関門にさしかかることは共通していた。そこで待ち受けていたのは、たとえば極貧家庭の子ども、被差別集団出身の子ども、重度の身心の障害や疾病のある子ども、非定住の子ども、保護を十分受けず経済的搾取の対象となっている子ども、移民や難民、外国につながる子ども、軍事占領下や植民地支配の下にある子どもなどなどの存在であった。教育意志は普及過程の最終局面で、これら子どもたちの置かれた特殊な条件に応じた、かなり個別化した対応を余儀なくされた。がんらいはノーマリティの押しつけとして画一性を旨としてきた公教育普及に、ここで突然、普遍から個別/特殊へのベクトルの反転という、一見真逆の動きが観察された。媒介者とは第一義的に、こうした「むずかしい子どもたち」と主流の学校教育とをつなぐ多様なエージェントたちのことを指す。本講義ではこうした難題に取り組んだ内外の媒介者の姿を、種々の資料を使いながら浮き彫りにする。

[到達目標]

教育学の中でも教育史、教育社会史の基礎知識の習得。特に教育が機能システムとして宗教、政治などから分化して自立化する過程で、教育者の存在が近代的教師として専門職化していった過程の理解を目指す。またそうした近代的教師の中から、本講義で媒介者と呼ぶ複雑な存在が生まれていった社会的・歴史的条件の理解を目指す。

[授業計画と内容]

- 1．オリエンテーション
- 2．教師・教職を歴史化する 媒介者 という視点
- 3～4．夜間中学がノを生んだ多彩なエージェントの群像
- 5．ハンセン病療養内の高校教育
- 6．「土地取上反対運動」における教師の役割
- 7．植民地における学校教育とその周辺：フィリピンの英語短編小説にみる子ども・教員・異文化
- 8．松永健哉の原点における 社会問題の教育化
- 9．中間まとめ・媒介者と教師の違い
- 10．ともに学び、ともに生きる：1970年代アイルランドにおける多宗派学校運動
- 11．黒人のニーズを国政に届けた黒人女子教育者メアリー・#8227マクロード・#8227ベシューン
- 12．媒介者という概念を通じて炭鉱閉山期の筑豊を振り返る：「筑豊の子供を守る会」
- 13～14．教育的か、政治的・思想的か：「公立朝鮮人学校」の「不正常」な教育
- 15．フィードバック

教育学II(2)へ続く

教育学II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート試験による。PandA上でのコメントシート提出による平常点も加味する。

[教科書]

倉石一郎編 『 媒介者 の教育社会史：模索する教師とマイノリティ 』（昭和堂）ISBN:978-4-8122-2407-6（2025年9月刊行予定）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストを事前に購入し、指示されたページに事前に目を通しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

特になし。